

授業科目	実践活動 (2020 年度入学生)				単位	2		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	NT32703J		
開講年次	3~4	開講時期	後期・前期	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP2-1 DP3-1 DP4-1 DP4-2 DP5-1			
担当教員	坂田 郁子、相良 かおる、尾上 均、八木 康夫、天本 理恵、藤和 太、青木 るみ子、山田 志麻、岡部 明仁、船越 淳子、高崎 智子、西村 貴子、永原 真奈見、花田 浩和、木村 宏和							
授業概要	1. 専門基礎科目及び専門科目で学んだ中で、関心を持った領域から担当教員との話し合いで、実践活動のテーマを設定する。 2. 選択したテーマについての調査・研究を実施し、テーマに関する知識、理解を深める。							
学生が達成すべき行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実践活動のテーマについて、調査計画・研究計画を立案することができる。 ・実践活動のテーマについて、文献検索や資料の収集をすることができる。 ・実践活動のテーマの専門的な内容について理解し、客観的な考察を加えることができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	0	10	50	40	100	
知識・理解 (DP1-1)				5	5		10	
知識・理解 (DP1-2)					15		15	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)				5	15	10	30	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)					15	10	25	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)						10	10	
態度(DP4-2)						5	5	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)						5	5	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<ul style="list-style-type: none"> ・実践活動のテーマについて、指導教員の協力の下に、調査計画・研究計画を立案することができる。 ・実践活動のテーマについて、自ら進んで文献検索や資料の収集をすることができる。 ・実践活動のテーマの専門的な内容について理解し、客観的な考察を加えることができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・実践活動のテーマについて、指導教員の援助を受けながら、調査計画・研究計画を立てることができる。 ・実践活動のテーマについて、指導教員の指導の下に、文献検索や資料の収集を行うことができる。 ・実践活動のテーマの専門的な内容についての議論に加わり、自分の意見を述べるることができる。 				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法	学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)	

1	実践活動のテーマについて調査/研究計画を立案し、計画に従って調査あるいは研究を実施する。 将来、管理栄養士として直面する課題に対する解決方法を身につけることを目的とする。	指導教員による指導を受けながら、研究計画を立て、研究を遂行する。		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				

24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	実践活動は、入学以来履修した全ての科目で学んだことの集大成となる。			
テキスト	実践活動のテーマに関連のある資料を利用する			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	必要な資料は、指導教員が適宜紹介する。また、必要に応じてデータベースを検索し、必要な情報を自ら収集する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・実践活動は、社会に出て課題に直面した時、どのようにしたら合理的な解決が図れるかを試す場である。指導教員や実践活動の仲間と協働して問題解決に向かって努力を積み重ねて欲しい。 ・図書館やインターネットによる情報検索の技術・方法についても習熟することが望ましい。 			
達成度評価に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員や実践活動の仲間との密接な共同作業が必要となる。 ・自己啓発につとめ、実社会での問題解決能力を身につけようと努力をしている姿が、達成度評価の対象となる。 ・評価における「その他」では、実践活動に従事することへの積極的態及び貢献度を評価する。 			

